

2017 年度点検・評価シート

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016 年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 <概評> ・修学支援では、学部・学科単位で留年・休学・退学者への対処や補習・補充教育が行われているが、学生の能力に応じた補習・補充教育の整備を期待したい。 ・出席不良者・成績不良者の早期把握や個別面談、補習・補充教育のほかに、オフィスアワー、進級不可者への指導等の取組みが行われているが、その効果の検証が必要である。
2016 年度外部評価委員会指摘事項 なし
前年度からの課題 （2016 年度点検・評価シート IV 次年度への課題 より転記） なし

Ⅰ 評価項目・担当部局

対象部局	外国語学部
評価基準 6	学生支援
点検・評価項目(2)	6-2 学生への修学支援は適切に行われているか。
評価の視点	留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性
	補習・補充教育に関する支援体制とその実施

Ⅱ 点検・評価 対象期間は 2016 年 4 月～2017 年 5 月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は 2017 年 5 月 1 日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

6-2	<留年者および休・退学者の状況と対処法> 留年者および休・退学者については、基礎ゼミ、教養基礎演習等の担任制をふまえた授業において、新学期開始後の一定の時期に連続して一定回数の欠席者（長期欠席者）に対して、本人を呼び出して学科主任等による面談を実施している（B6-39 d2-表 36、37、38）。退学者数の実態については、毎月教授会で報告しており、学部内に設置されている学生支援委員会で対策を検討し、それについて教授会で審議している。 成績不良者に対する指導としては、外国語学部学生支援委員会が窓口となり、2014 年度入学生より 1 年次の取得単位数が 10 単位未満の学生に、面談を実施し（面談の記録を残す）、また、2 年次終了時点の修得単位数が 20 単位未満の学生には、3 月に成績表とともに保護者宛ての注意喚起の文書（3 学科共通）を発送している。 <補習・補充教育に関する支援体制とその実施> 補習・補充教育に関しては、主として基礎ゼミ、教養基礎演習等の担任制をふまえた授業がその役割を担っているが、明確に補習・補充教育を目的とした授業設置を検討するには至っていない。板橋・東松山の両校舎でオフィスアワー体制が整備されており、教員が学生からの相談に応じることが可能となっている（A6-1）。 3 学科の中でも高い退学率の見られる中国語学科における補習・補充教育の必要性が認められる。中国語学科専門必修科目の一部の科目において、専任教員が補習・補充教育を主眼に担当する授業があるが、制度化されてはいないのが現状である。
6-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （１）留年者および休・退学者の状況把握と対処の適切性【×】 具体的事例： （２）補習・補充教育に関する支援体制とその実施について【×】 具体的事例：

【効果が上がっている事項】

6-2	・全学プロジェクト予算により 2018 年度入学生に対して入学前教育が実施される。
-----	---

【改善すべき事項】

6-2	・留年者に対する対処の適切性については協議が行われていない。 ・学科によっては補習・補充教育に関する支援体制とその実施について検討を行う必要がある。
-----	---

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018

中期目標 (2014～ 2018)	6-2・3 学科で予定されているカリキュラム改訂後の新カリキュラムでは、補習・補充教育に特化した授業が設置されている。	・学部としての補習・補充教育体制が整い、社会に公表されている。	→			B	B	
16 年度 目標	6-2・補習・補充教育に特化した授業が設置されている。	・教授会等での承認を得ている。				B		
17 年度 目標	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) 6-2・補習・補充教育に特化した授業が設置されている。 6-2・留年者および休・退学者対処の適切性について協議を行う。	・2018 年度実施のための具体的検討が行われ、予算措置が講じられている。 ・各学科より示された意見を学部教務委員会で議論し、学部全体で対処の方法を策定する。					A	

IV 評価専門委員会所見

6-2 【現状】【改善】【目標】外国語学部学生支援委員会が設置されて、学部として学生支援をシステム化している様子が見られて、評価できます。
6-2 【現状】【改善】【目標】中国語学科において、補習・補充教育に主眼をおいた授業が設置されていることは、評価できます。ただし、効果が明確でないで、方法をもう少し考える必要があるのかもしれませんが、また、他の学科にも設置されることが望まれます。
6-2 【目標】2018 年には非常に具体的な目標と方針が立てられているので、次年度の効果が期待できます。

V 所見への対応

6-2 【現状】【改善】【目標】中国語学科では 1、2 年生全員を対象とした統一試験を実施しており、個人、クラスごとの成績が測定されます。その結果、成績下位の学生に特化したクラスを設け運用してきましたが、その効果は翌年の統一試験で測定を行い、検証しています。

VI 次年度への課題

--

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A6-1 大東文化大学・大学院シラバス（CD-R） 大東文化大学ホームページ（Web シラバス） http://www.daito.ac.jp/campuslife/syllabus/index.html 《既出》A4-2-16 B6-39 大学データ集 《既出》B1-22
〔追加資料〕 2016 年度中国語学科シラバス